

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
☎ 042-795-7361 (FAX: 必
要に応じて186を頭に加える)
議会 042-724-2171
yoshidaben@gmail.com



建築物応急危険度判定と住家被害認定調査の相違 (震災被害地: 小矢部市で視察)

能登半島地震の表記2件の取り組みに関して、建築士や測量士などの有資格者が当たりますが、富山県小矢部市では、民間の判定士に依頼をして実施して業務を進めているとのことでした。(小矢部市産業建設部都市建設課を視察訪問)



発生に伴い、工務店などの建築士は一般から依頼を受けた家屋の復旧に追われるのですが、それをぬって、社会的に必要とされる、人の安全な居住にかかわる建築物応急危険度判定業務(1月4日から1月9日)を優先し、次に、人の財産(家屋や家財)の損壊による災害ゴミ(無料)の扱いや、生活再建にかかわる補償(公的、民間双方)の適用に関する罹災証明の発行に対して、住家被害認定調査(1月12日から開始)を行います。実務を促進するために、被災者が自分で自宅の被害状況を撮影した写真も住家被害認定調査の判定に利用しているとのことでした。

予算可決の付帯意見に反対討論(続き)

無所属会派は、(仮称)国際工芸美術館の建設発注が不調となることが続き、それを受け、入札参加条件を大幅に緩和した内容を盛り込んだ新年度予算に対して、その工事予算部分をカットした修正案を提起しました。ところがこの修正案に関心を示さない会派の1グループで予算原案に積極的に賛成した会派から、この予算執行を遅らす付帯意見を付ける提案がされました。この提案では地元業者の基幹的な業務での参画を求めています。その意見は「町田市民としてもっともだ」と思う反面、市長が建設を優先する(仮称)国際工芸美術館の入札発注行為の現状に対して、ガバナンスの効力を発揮できないものと受け止めました。なぜなら、これまでの入札が不調となった経緯、「とにかく工事を発注したい、建設を進めたい」という行政の動きに歯止めをかけることには繋がらないものであるからです。

それを是正する手段としては、法律に接触しない形態で、地元業者参加、地元企業育成を掲げた条例等を改定して、町田市の入札行為に縛りを課すか、我々が提起したように、当該部分を削除した修正案の見地に立つほか無かったという判断を提示し、反対討論を行いました。この「付帯意見」は矛盾が多すぎ、賛成少数で否決となりました。



○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎町田市内企業が開発した「水耕栽培メロンの世界一決定戦」を開催しよう!

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしました

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
夏季休暇期間中の募集開始

インターン体験記①-2 佐々木 瑛

国会という機関で働く公務員の仕事について

参議院事務局で働かれている元インターン生の方のお話を伺いました。そこでは、これまで私が授業で習ってきた、そして当たり前に行われている日本の政治活動がどのようにして成立しているかを学びました。

参議院事務局は主に3つの組織に分かれています。本会議や委員会が円滑に勧められるようにサポートする会議運営部門、会議内容をさらに深めるために議会のシンクタンクとして機能する調査部門、施設管理から議員に関する事務など、院の活動を多方面から支える総務部門です。

中でも、調査部門では、次に行われる委員会や本会議に向けて事前準備として資料を作成したり、議案の論点を整理したりするということを学び、これは会議の内容を大きく左右する大切な役割であることを実感しました。

表に立って意見を発する訳ではありませんが、参議院内で行われる話し合いがより充実に、かつスムーズに行われるためには参議院事務局は欠かせない職であり、日本の政治活動を支える重要な役割を担っていることを感じました。



政治家と官僚が政治を作っていると思いがちですが、それを背後で中立的にバックアップする仕事もあります

東京学芸大学2年生 佐々木 瑛 (第53期生)

震災被災地内灘町：液状化現象の被害視察

能登半島地震被災地の一つである内灘町は、河北潟の干拓地の部分に重大被害(地盤の液状化、建築物の倒壊等)が発生しました。この地域の人々がどこかの避難所で過ごしておられるものかと推測する半面、赤紙(立入危険)を張られている家を含めて、複数の住家に人の出入り、生活の様子がうかがえませんでした。すでに震災発生から100日が経過し、避難所が廃止されているかも知れませんが、人がそこにいて、生活しているのではないかとと思われるものでした。



電信柱が傾く。この先は大々的に道路面の隆起、土地の陥没、家屋や塀の倒壊が続く

本来、住家が倒壊しておれば、避難所に退避する、次いで仮設住宅に入る、一定の再建の見通しが出来れば、元の場所に新しい住家を立て直すというスケジュールが立てられるものですが、この内灘町西荒屋のように液状化現象が著しい場所では、一般の震災復旧が進み、インフラ設備の再建が進んだとしても、単純な住家の再建が難しい人たちが少なからず出るのはないでしょうか。そのことが、100日が過ぎたにも関わらず、上の写真のような光景が今もさしたる変化もなく、続いていることから感じられました。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2024年4月末までに106名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。